



やまざきまさお 山崎正男 議員

コロナ対策 2次感染の予防策は 基本的感染策を徹底する

問 町民の努力と忍耐のおかげで無事に無感染を達成したが、今後の道のりをどのように考えるのか。国の10万円の給付やマスクの配布状況や、2次感染の予防策、自然災害

とコロナの複合する避難所の在り方についても問う。
加えて、児童生徒の学校教育の安定した方向性を見出してほしい。

答 青木地域住民課長

黒潮町では、1万997名の方が対象となっており、6月8日現在ですでに1万423名、率にして、94・78%の方が申請済みとなっている。なるべく早く、そして一人でも多くの皆さんに給付金が行き届く体制を整えていきたい。

答 川村住民課長

黒潮町では、6月3日時点で、黒潮町をカバーする土佐中村郵便局から町内の郵便局に布マスクが運ばれ、配送を開始しており、6月の中旬を目指して取り組んでいると聞く。

答 佐田健康福祉課長

私たちが今できることは、生活の中で、人と人

との距離を保つ、マスクの着用、石鹸での手洗い、手指の消毒、共有スペースの消毒、換気、対面での会話や食事をしない、密集、密接、密閉の3密を防ぐ等々、基本的な感染対策を徹底し、新しい生活様式を生活の中に根付かせることかと思われる。今後も継続的に住民の皆さまに啓発を行ってきたい。

答 大西町長

本議会が終わり、この第2波、第3波と呼ばれる次のフェーズ（段階・局面）に備える協議をスタートすることになっている。

答 徳廣情報防災課長

出水期における、避難所の感染症対策マニュアルを作成し、開設場所も増やし、密を避けるなどの対策を行うようにしている。

答 畦地教育長

1年のスタートは遅れたが、十分回復できる期間が残されていると思う。教育委員会としても、児童、生徒の学力、進路保障に有効な手立てがあれば、これまでの慣例や制約にとらわれることなく、取り組んでいきたい。

災害対策

問題箇所看板表示を

区長に状況説明する

問 過去を振り返ると、落石落木の処理、海岸や港のごみ処理、佐賀取水関の水路問題、排水で土砂の溜まる場所の補修、

馬地町道の暗きよと溝の工事、伊与木川護岸の法面の補強工事、河川の砂利問題、東公園の階段の補修等について、問題の箇所には、なんらかの看板の表示をし、いつまでにかだと思いが、その方針を聞く。

答 森田建設課長

いずれの事項も、住民生活に直結しており重要な課題と認識している。今後も適切な対応に努めていきたい。
また、問題の箇所に看板等の表示は、地区要望とも重なる部分があり、関係区長に状況等を説明し、周知して行く。



災害復旧工事を待つ 洪水崩壊の危険箇所（町道馬地中角線）